

2009年10月6日に第13号経済・港湾委員会が開かれ、田中健が質問を行いました。以下に田中健の質問とその回答に関する全文を掲載しております。

◆導入

○田中委員 きょうは三点質問をさせていただきたいと思います。

一点は観光産業について、または二点目は、今回、来週に開かれます東京国際映画祭について、三点目は新銀行東京についての質疑を行わせていただきたいと思います。

都は、「十年後の東京」という都市構想の中で、水と緑の回廊の復活を挙げて、環境先進都市の再生を目標として取り組んでおります。もともと東京は、経済発展とともに劇的にまちを変えてきました。渋滞をなくすためには急ピッチで高速をつくったり、また土地の収用をやりながら川の上や堀の中をどんどん使っていった経緯があります。経済発展に伴って、東京から貴重な海や水辺空間、自然を奪ってきた経緯もあります。

今回オリンピックは選ばれなかったものの、この水と緑を取り戻す目標というのは、東京ないしは日本の豊かさを取り戻すためにも必要であり、そこには観光の産業の視点が欠かせないものだと思っております。

きょうはその視点で、この十九年に示されました東京都の観光産業振興プランに基づきまして幾つか質問をさせていただきます。

その中でも、プランで大きく羽田空港の国際化の進展が掲げられています。ここから質問をさせていただきたいと思います。

◆観光産業についての質問

羽田空港は、もう来年と迫りましたが、二十二年の十月、新設の滑走路の開設に伴って、名実ともに国際便の就航が拡大されます。そして二十四時間化の運用とともに、さらなる利用拡大が図られてまいります。この機会をとらえて、観光の振興の展開が必要と考えます。もちろん国においても、また地域の自治体、大田区においてもいろいろな考えがあるかとは思いますが、まずこの羽田空港の国際化を踏まえて、東京都の観光振興に対する認識を伺います。

○小島観光部長 羽田空港の再拡張、国際化により、アジアを初め世界各国からの旅行者の増加が見込まれます。都は、これまで、ウェブサイトによる情報発信や地域と連携した観光資源の開発など、外客誘致に取り組んでまいりました。

こうした中、今回の羽田空港の国際化は外客誘致促進の好機であると認識し、これまでの取り組みの一層の強化を図ってまいります。

○田中委員 それを好機ととらえる、もしくはその大きな転機になる必要性というのはだれもが認めているところであるんですが、どういう具体的な取り組みをしていくのかというのが今後の課題だと思っております。

先ほどの答弁では、地域と連携した観光資源の開発ということがいわれていました。例えば、羽田の空港の周辺には、このプランにもありますが、天王洲にオープンした水上のレストランや、またオープンカフェ、活用可能な水辺空間、陸の方を見ても、隣には池上本門寺、大鳥居、羽田、観光資源が存在します。

この空港の国際化を契機に、こうした地域における観光資源の活用を一層の振興につなげるべきであると考えますが、見解を伺います。

○小島観光部長 都では、これまで、特色のある観光資源を活用いたしまして、地域特性を生かした観光まちづくりの取り組みを推進してまいりました。大田、品川地域では、羽田空港の国際化に伴い増加する旅行者を空港周辺地域に受け入れ、回遊させるため、地域の主体的な観光まちづくりの取り組みを開始しております。

今後とも、地域が主体的に取り組む観光まちづくりに対しまして、関係する区市町村と連携を図りながら支援をしてまいります。

○田中委員 今の答弁ですと、地域が動いていかないと何もできないというのは、私も地方議員をやっていてよくわかるんですが、その意味では、今、地域の主体的な、また地域が主体的に取り組むことがまず第一だということがあるんですが、その一方で、都の顔がなかなか見えないというのも、よく聞かれる声であります。

都としては、お話を聞きますと、地域のリーダーの発掘や開発、または育成、同時に、今は、特に観光マップですか、新規事業としては取り組んでいるということもお聞きをしました。水辺を生かした観光

ルートの開発として、この取り組みについて、特に羽田空港を中心として、これからの発展をとらえて、どのようなことで実施をされているかをお聞きします。

○小島観光部長 都はこれまで、水辺空間を生かした観光振興のため、大田、品川周辺の勝島運河地域を初め、七地域の広域観光マップを作成してまいりました。

この広域観光マップでは、それぞれの地域ごとに、まち歩きの観光ルートを紹介しております。例えば、勝島運河周辺のマップでは、平和島、大森コースなど五つのルートを設定し、地域の観光資源などをめぐるものとなっております。作成に当たりましては、現地を実際に歩きながら検証し、旅行者が水辺を楽しめるように工夫しております。

これらの広域観光マップは日本語と英語で作成し、羽田を初めとする観光情報センターなどで配布され、国内外の旅行者が活用できるものとなっております。

○田中委員 そのような観光マップというのは、区でもよくつくられておまして、つくる人によってできばえも内容もかなり大きな差がありまして、都としては、今いいましたように、都の職員みずからが実際に歩いて検証したということでもありますので、大変に期待をしながら、と同時に、さらなるこの地域での努力を進めていっていただきたいと思っております。

一番最初の質問でありましたので、都における、空港を中心として、この東京湾、国際化に伴う大きな方針の取り組みを聞かせていただきました。

観光振興においては、今は観光資源をまず結びつけることという話がありましたが、同時に観光資源をつくり出していくことも必要であると思えます。他局にもかかわることではありますが、例えば、我が大田区でいえば、大田市場、これは地元の自治体でも、場外市場をつくって、観光資源への発展、これからの可能性を議論されているということでもありますし、また東京湾全体を見ても、海辺という意味では、この振興プランにもあるように、舟運のネットワークや海上交通、さらなる展開や、これから環境整備が戦略的取り組みとしても掲げられておりました。

ぜひ、このハードの面の整備も含め、各部局、これは観光一が所管ではないんですが、横断的に連携して取り組む必要があると思っておりますが、まずこの所見を伺いたいと思えます。

○小島観光部長 水辺の観光資源といたしましてはさまざまなものがありますけれども、その利用を進めていくためには、今委員おっしゃいましたように、関係する部局が連携して、これからさらに進めていくということが必要だと思っております。

こういった視点から、水辺を活用した観光資源につきましては、今後、進めるような方向で、私どもも検討してまいりたいというふうに考えております。

○田中委員 今回、幾つか勉強させてもらう中で、確かにハードは、港湾や、またさまざま建設局、そしてそれができなければなかなか観光と結びつかない等々、議論が何度か繰り返されました。今、意気込みとして、各部局をまたいで、また一緒になってやっていただけるというお話なので、それに期待をさせていただきたいと思えます。